

硫黄島滑走路地区等における
御遺骨・壕の存否を確認する調査等について

平成25年9月18日
防 衛 省

硫黄島滑走路地区等における御遺骨・壕の存否を確認する調査等について

23年度

24年度

25年度

23年度予算:約5千万円(2ヵ年国債)

御遺骨・壕の存否を確認する科学的手法
について検討
※高性能地中探査レーダ試作等

24・25年度予算(約2.6億円)により滑走路地区等の調査を実施

24年度予算:約1億円(2ヵ年国債)

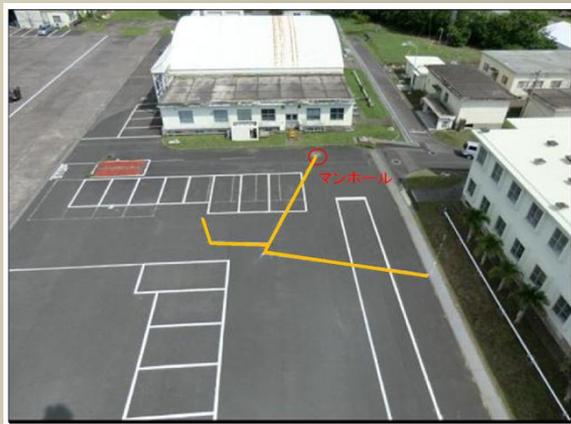
高性能地中探査レーダ(地下壕)に係る調査

25年度予算:約1.6億円(単歳)

高性能地中探査レーダ
(ご遺骨)及びトモグラ
フィー調査

平成23年度 御遺骨・壕の確認をする科学的的手法についての検討

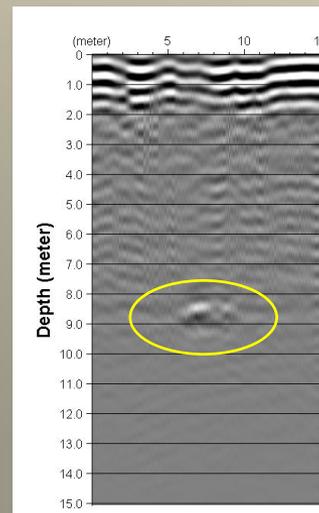
○試作した高性能地中探査レーダで、既に存在が確認されている壕を探索し性能を確認



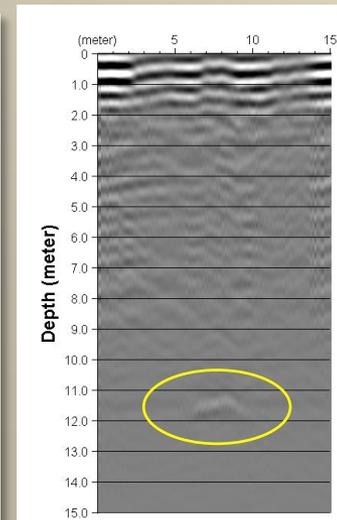
検討場所の状況(黄線の直下には壕が存在)



検討状況

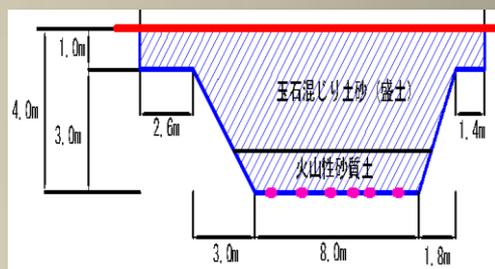


地下約8mの壕を探索



地下約10mの壕を探索

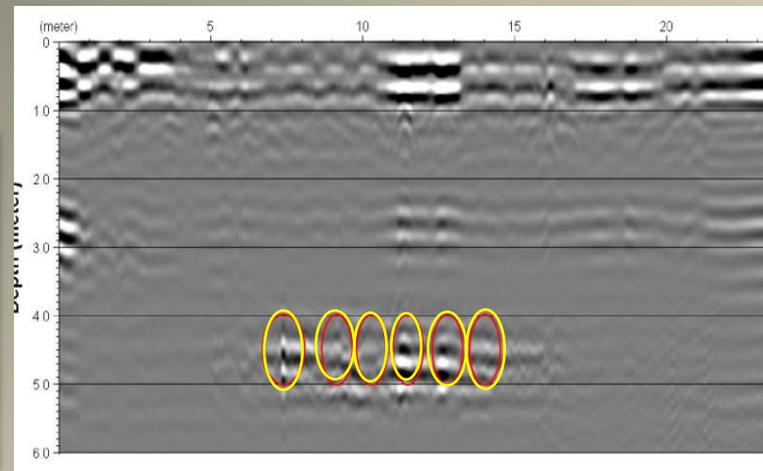
○試作した高性能地中レーダで、予め埋設した御遺骨の模型等を探索し性能を確認



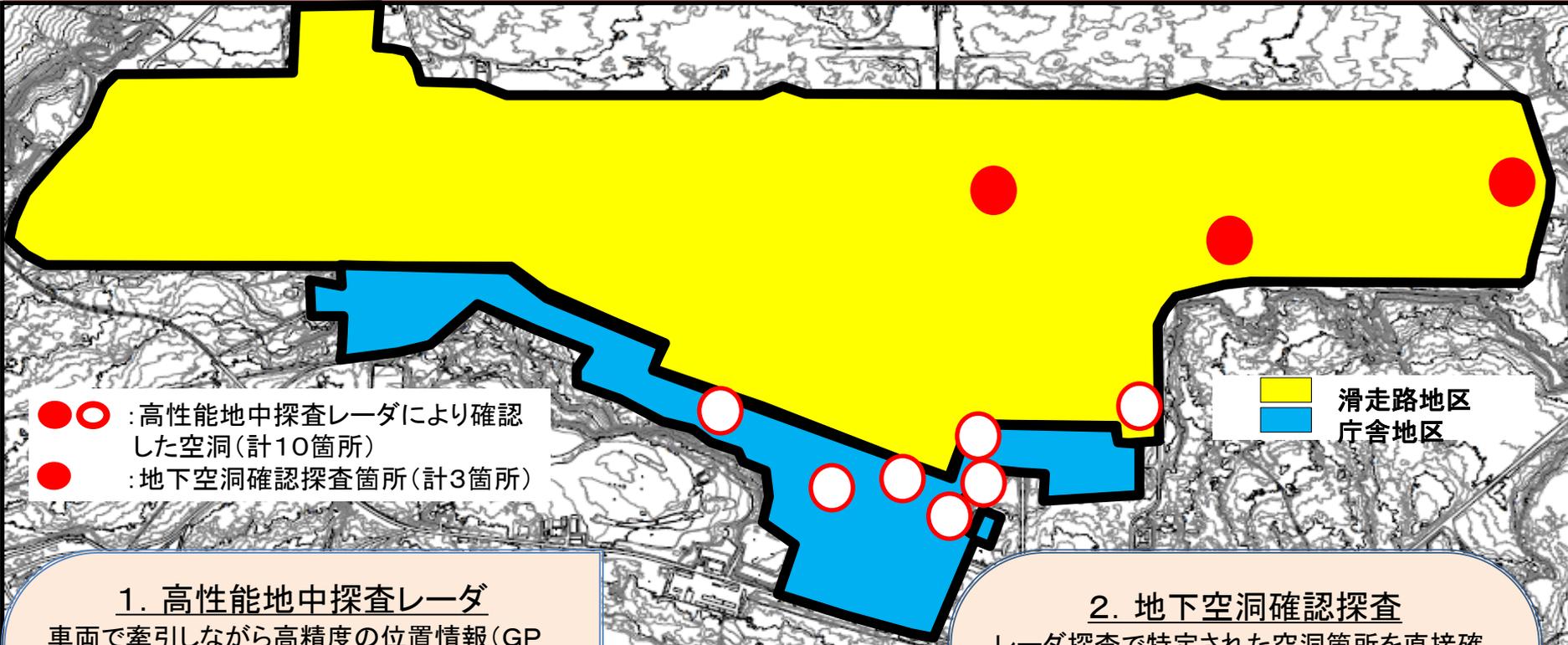
模型等の埋設状況



検討状況



模型等の埋設状況と探索結果が一致

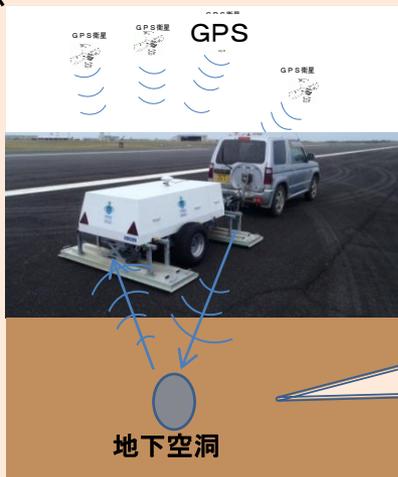


- : 高性能地中探査レーダにより確認した空洞(計10箇所)
- : 地下空洞確認探査箇所(計3箇所)

滑走路地区
庁舎地区

1. 高性能地中探査レーダ

車両で牽引しながら高精度の位置情報(GPS)と地下の空洞情報を同時に測定できるシステム

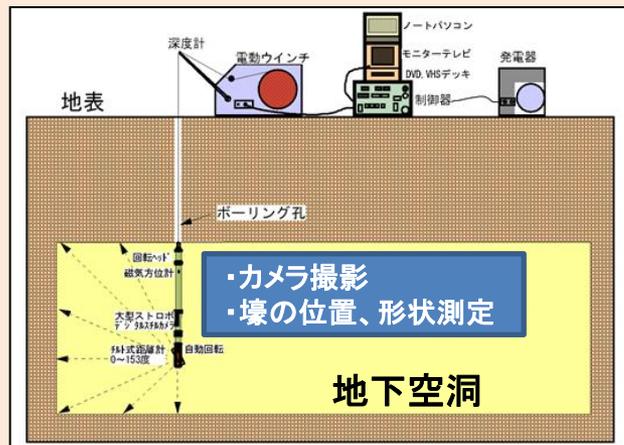


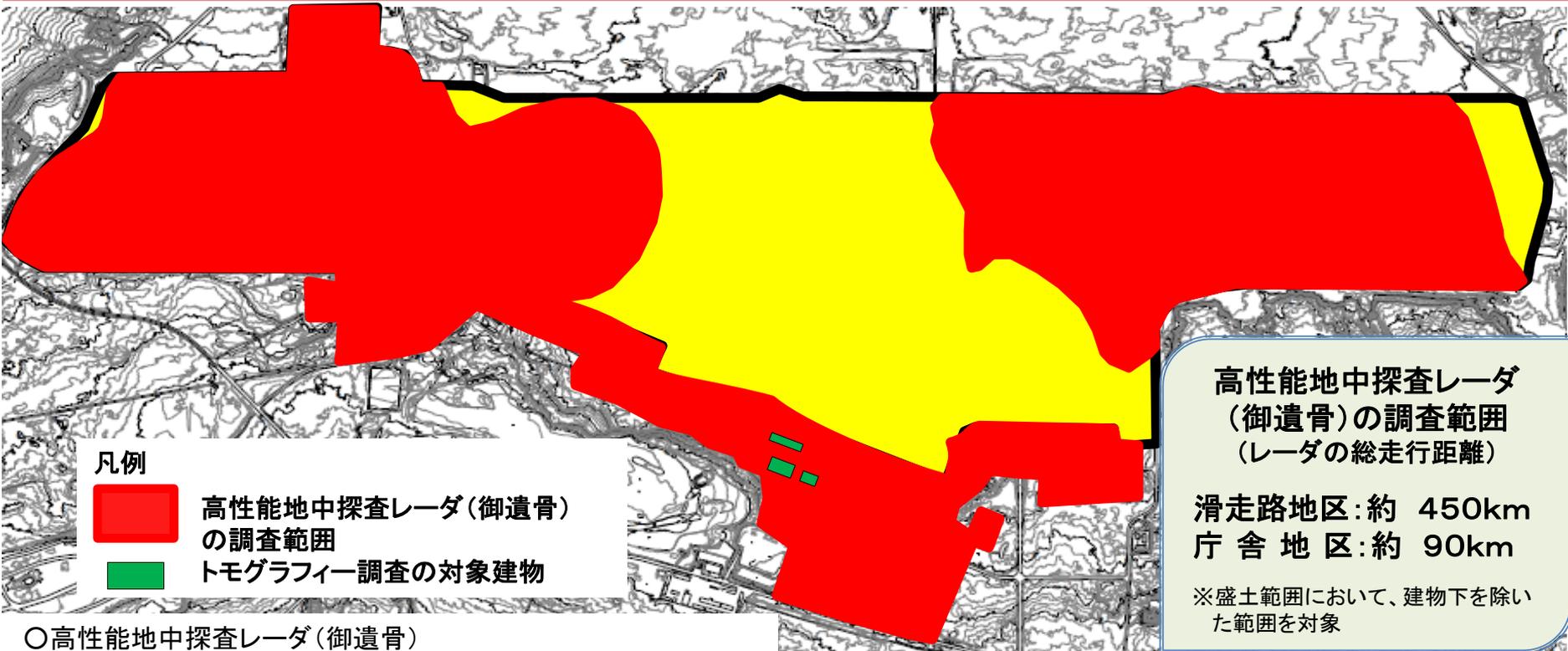
過去に発見されている壕と照合し、過去の調査等により把握されていない箇所について、地下空洞確認探査を実施

滑走路地区: 3ヶ所

2. 地下空洞確認探査

レーダ探査で特定された空洞箇所を直接確認できる可視化システム





凡例

- 高性能地中探査レーダ(御遺骨)の調査範囲
- トモグラフィー調査の対象建物

高性能地中探査レーダ
(御遺骨)の調査範囲
(レーダの総走行距離)

滑走路地区:約 450km
庁舎地区:約 90km

※盛土範囲において、建物下を除いた範囲を対象

○高性能地中探査レーダ(御遺骨)

- ・ 御遺骨が地中にある場合は、自然状態の地山の中ではなく、盛土部分にある可能性が高いと考えられることから、過去の地形、地質情報等及び高性能地中探査レーダ(地下壕)の調査結果を基に盛土範囲を特定し、現在、高性能地中探査レーダ(御遺骨)による現地探査を実施中。
- ・ 解析を含め11月末に概ねの結果が判明する見込み。

○トモグラフィー調査

- ・ これまで建物下については、建物基礎の工事段階で、予め固い地盤まで掘り下げ、壕や御遺骨の確認を行い、地盤の下にはレーダ探査を実施し、壕の存否を確認。
- ・ しかし、これら調査を行う以前に建設された建物が3棟あり、これらについては、建物基礎の工事段階で、基礎を固い地盤まで掘り下げているものの、レーダ探査を実施していなかったことから、今回、トモグラフィー調査と呼ばれる手法により建物外周部から建物下の地下壕の調査を行う予定。

トモグラフィー調査

CTスキャンの地中調査版であり、2つのボーリング孔の間の空洞を評価できる。
調査範囲は、管理地区内の建物下。

